

# ふるさとの昔話

きつねのはなし

## 大淵水のおさんの宮



大淵水のおさんの宮

人々は、けものと共に生きて来ました。人とけものまじわりは、おかしくもあり、おそろしくもありました。特に狐は、古来から人に知られ、いろいろな言い伝えや迷信があり、人をだますと言われていました。今回はこの狐のお話です。

### いたずら狐のおさん

旧大淵村沼水におさん神屋じんやという神社があります。

昔、ここに「おさん」という狐がいたそうです。この狐は毎晩、夜道を通る人を迷わせたり、悩ませていました。ある晩、大淵の陣兵衛じんべえという人が馬をひいて遅く家へ帰ろうとして、ここを通りかかりました。

すると、この悪狐が「おじさん、馬に乗せてくれる。」と言って出てきました。陣兵衛はこの時とばかり、この狐を馬の鞍にしっかりとらげて

家に連れて帰り、家の者に言いつけて火あぶりにしました。

狐は、「あつい、あつい」といって涙を流して助けを乞うたので、陣兵衛さんは、願いを聞き入れて狐を離してやりました。

その後、じいさんがまた遅くここを通りかかると、また狐が出て「ひつくり、ひつぱり、毛焼の陣兵衛やあい」とからかいました。それ以後も通る人を迷わせたので、付近の村人がおさんの宮みやに祭ったところ、それからというもの、この狐は決していたずらをしなくなったということです。

### 地名の由来

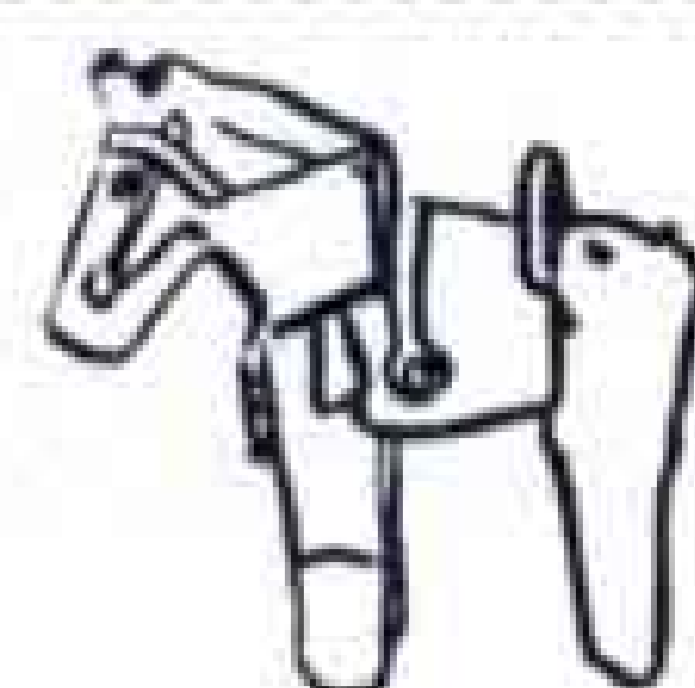
#### 砂山



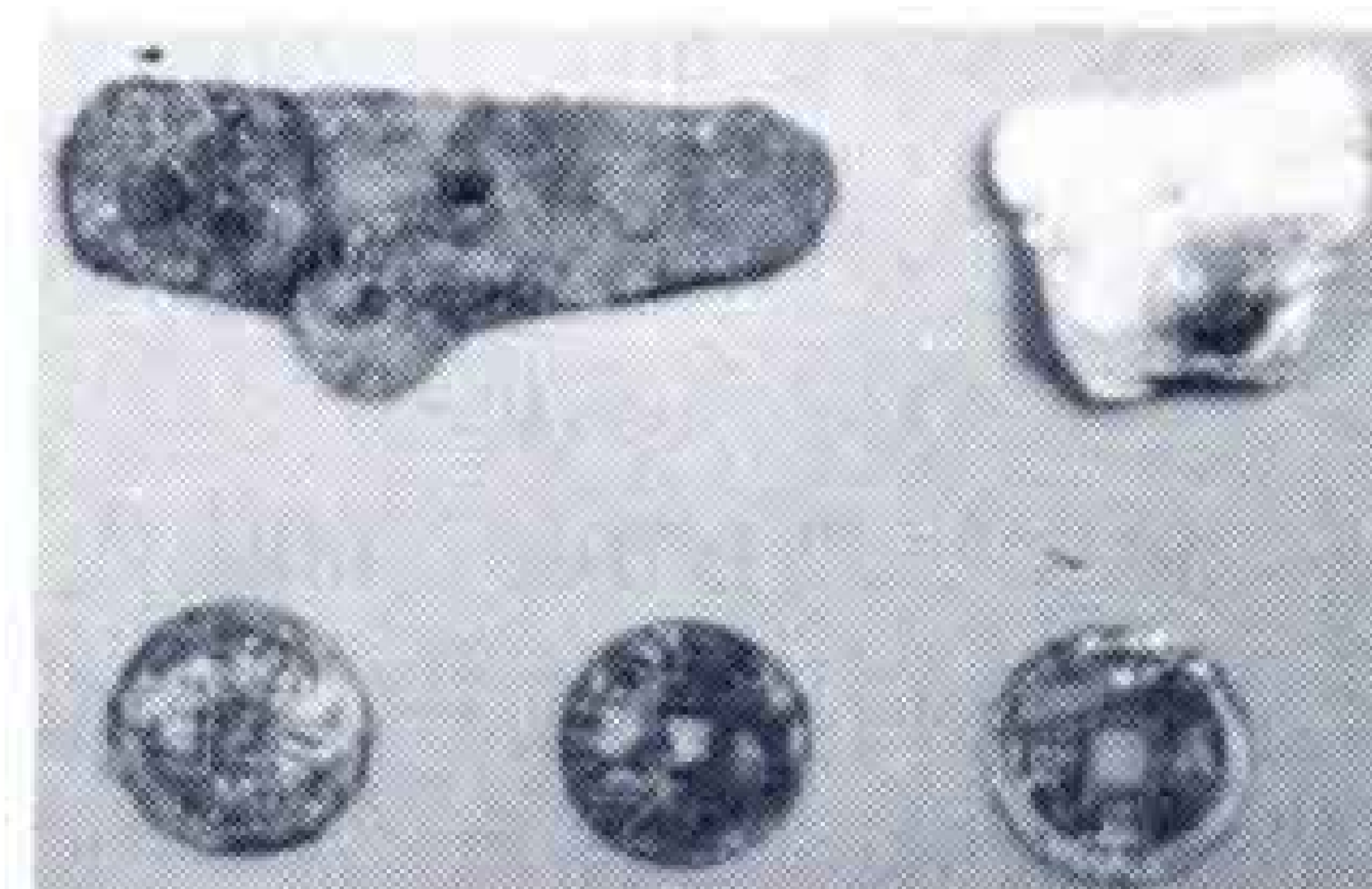
砂山地区の富士塚

鈴川や今井地区の砂丘地帯を「天香久山あまのかくやま」と呼んでいます。これは奈良時代のはじめ頃僧玄昉が、砂山地区きょうじゅうじ こんりゅうに行住寺を建立したと想定され、その時にこの地の地形が奈良の天香久山付近に似ていたのです。そのように呼んだのかも知れません。砂山地区に富士塚と呼ばれる小山があります。地元ではこの富士塚を天香久山とも呼んでいます。

## 古墳のはなし ②



### 古墳と祖先の生活



江戸時代頃の土壌墓からの出土品  
どこうぼ

### 村人達のお墓は？

古墳は、身分の高い人のお墓です。古墳を造るのも村々の農民の仕事でした。では、普通の村人のお墓はどうしたのでしょうか。村人は、古墳のような立派なお墓を造ることは許されませんでした。これらの人々は、土中に穴を掘り、そのまま葬られたといわれ、このようなお墓を「土壌墓」といいます。

市内では、古墳時代の土壌墓は発見されていませんが、東名インターの東側で江戸時代頃の土壌墓が発見されています。

また、古墳には名前がつけられていますが、古くから知られていて、昔から「伊勢塚」と呼ばれていた伊勢塚古墳や、記録に残りその位置が知られているもの以外は発見後に研究などの都合でつけた名前が多く、ふつうその土地の小字名をつけます。

### こちら編集室

例年になく雪がちらつく市内。2月18日は、とうとう一面の銀世界に。子どもたちは大喜びでしたが、そろそろ雪景色にあきた人も。編集室にもどこからともなく「春よ来い、早く来い」の鼻歌がではじめました。